



心のこもった 温かいコミュニケーションを

～ 令和8年5月11日 全校朝礼 校長講話より ～

今日は皆さんの言葉遣いについて、まずは少しお話をさせてください。

最近、校長室の扉を開けたままにしていると、ときおり悲しくなるような言葉が私の耳に届きます。

それは、相手を見下すことで、自分のストレスを発散するかのような言葉です。

大声で相手を呼びつけたり、冗談とは思えないような汚い言葉を発したりする人もいます。どんな人間関係なのだろうと廊下に出て声をかけることもあります。大部分は通り過ぎる中の出来事で間に合いません。

でも、むしろ、それだけ日常の中で頻繁に交わされる言葉なのかな、と思います。

言葉は、表情と並んでコミュニケーションの大事な要です。

『どのような言葉を選んでお互いの気持ちを伝えあうものか』

言葉にはお互いの気持ちが表れるのですから、どのような気持ちでその集団をつくるのか、その集団で交わされる言葉を聞いていればわかるということになります。

あなたは、あまり言葉を選ばずに、無責任な言葉や、身勝手な言葉でコミュニケーションをしていませんか？

先ほどの心無い言葉は、ごく一部の人が使っているだけなのかもしれません。

しかし、多くの人は口にするのがない不適切な言葉でも、どこか一部でやり取りがされるだけで、集団全体には影響があります。

これを『言語環境』と言います。

私は、心無い言葉が苦手です。

直接私に向けられたものでなくても、近くで、特に大声でひどい言葉を受け止めている人がいると、胸が締め付けられるようにとても苦しくなります。

中でも、別格のひどい言葉があります。みんなで共有したいので、ごめんなさい、一回だけ言わせてください。ごめんなさい、一回だけ口にしますね。

それは、「死ね」「殺す」「死んだ」という言葉です。

これは、冗談でも言ってはいけない言葉です。

学校のルールとして私が禁止を宣言することはあまり好きではないのですが、これは特例です。三中では、この言葉は禁止にしたいと思っています。暴言です。聞いているだけで、心が傷つきます。皆さんは許せますか？ 私は許せない。

ぜひ、なくしていくべき言葉として、力を合わせて根絶していきましょう。

これに対して、優しい言葉は、心が和みます。

相手によびかけ、思っていることを共有しようとするコミュニケーションの様子が聞こえてくると、ホッとします。

校長室にいて、廊下の会話ですから壁越しに顔は見えなくても、自然で自分らしい表情をしているのだろうな、と想像ができます。一緒に校舎で生活している身として、心の中が温かくなり、この学校で過ごせることが嬉しくなってきます。

もしも、暴言でコミュニケーションをとることしか手立てを知らない人がいたら、みんなの言語環境で優しく包んでいきましょう。

よい言語環境は、インプットとアウトプットで作られるという話を聞きました。よい質の言葉を身体に取り入れられると、その言葉は身体の中で思いやりの心によって成熟されて、相手へと発せられるというのです。

中でも、読書をして、その本の中の世界を知る体験をすれば、ふさわしくて質のよい言葉が身に染みこんでくるそうです。

このよい質の言葉は、お互いに少し心がけるだけでも変わってきます。私は、10年ほど前から生徒を呼ぶときに「さん」を付けるようにしています。上から見下ろす印象が減って、生徒をとの関係が少し穏やかになったように思います。

来月6月は、東京都内の全小中学校で取り組むふれあい月間です。

この機会に、身の回りに嫌な思いをしている人はいないか？と見回し、困っている人がいたら何かできないか、と再点検をする期間です。

この身の回りの点検を、6月を待たずに、三中では一歩早く、今日から考えてみませんか？
いかがでしょうか？

もちろん、学校の中にいじめはないか、もしくは日々のなかでいじめを見逃してはいないか、そして自分の言動に浅はかな振舞はないか、

これはいつでも考えたいことですよね。

例えば、生徒の中で、相手が嫌がることをして喜んでいるような場面はありませんか？

これは、相手とどう接したらよいのか分からない人、コミュニケーション方法を知らない人の幼い行動です。

集団で生活したくて相手と関わりたいときに、無理に相手の反応を引き出すことしか知らなかったり、上から見下ろして自分の優位を保てないと不安になったりする人の行動です。

本人は、これで心の距離が近づいていると思うのかもしれませんが、果たしてそうでしょうか。相手の気持ちを考えたり、同じ目線で一緒に向上したいと思えたりする人は、こんな関わり方はしません。

冷静に考えたら、『困る人の姿を見て楽しく思う』なんて、異常ですよ。

そんなときは、周囲にいる人も同じく異常です。異常な状況を止めなければ、当事者です。少なくとも、被害者にとって、周囲の人間もみんなマイナスの圧をかけて加担してくる加害者です。

そんな加害を楽しむような人がこれからもいるとしたら、その人自身が困ったり悩んだりしたときに、思いやりをもつ誰かがそばにいてくれると思いますか？

「からかい」？ 「冷やかし」？ 「悪ふざけ」？

そんなものは、認めることはできない、許すことのできない、未熟で幼稚で悪意ある言い訳です。

「いじり」？ 「冗談」？

これも同じ、罪のある言葉になりえます。

さらに言えば、もしも困っている人がいるのに助けがないような場面があるなら、お互いを思いやれる集団であると言えますか？

私たちは互いを思いやることのできる学校や社会で、胸を張って生活したいと思いませんか？

来月のふれあい月間は、こんなことを考えて、日頃の生活を振り返る期間です。

繰り返しますが、何も来月まで待つ理由はありません。今日できることがあるならば、よいことはすぐに始めましょう。

どうしたらよいか、それはすごくシンプルな一歩です。

『相手が喜ぶことを探せばいいのです。』

こうしたら嬉しいだろうな、こうしたら助かるだろうな、こうしたら一緒にもっとすてきなことを考えられるだろうな。そんな仕掛けをいつも探して、実行することです。

嬉しいときの反応って、少し時間がかかるかもしれません。でも、その反応を待つ時間も含めて、お互いが、相手が喜ぶ言動を選べる集団であれば、日常はとても『よい居心地』になるはずです。

始めのうちは相手を思いやろうと思っても、ときには我慢が必要で、何とか相手を優先することがあるかもしれません。ふと立ち止まって何か忘れていた大事なことを思い出す必要があ

るかもしれません。自分を変えることはときにストレスかもしれませんが、そのひとつひとつが、自分勝手だった自分が、新しい自分に成長している瞬間だと思えたら、頑張れると思いませんか？

もちろん、いじめられている人、嫌な思いをしている人がいたら、近くの仲間や先生にできるだけ相談をしてほしいと思います。まずは、話しやすい相手を探すことから始めてみるのはいかがでしょうか。

私たち先生方も、皆さんが嫌がることはしません。大人ならなおさら、自分の言葉や行動に配慮をするべきです。それが子どもの幼さとの差になりますし、皆さんが目指すべき将来の姿でありたいと思っています。もしも気になる言動があったら、校長室の扉をノックしてください。一緒に考えたいと思います。

困ったり、悩んだりしたときこそ、決して独りにならないでください。これを忘れないでいてほしいと思います。

学校にしても、卒業後の社会にしても、私たちの日々の生活を作るのは私たち自身です。

どんな学校で生活をしたいのか、

私は、「ありがとう」という言葉がたくさん聞こえる学校がいいな、と思います。

考えることをやめず、みんなで思いやりをもてる集団を毎日つくっていきましょう。

《 教育活動のご紹介 》

学校ホームページ では、
荒川三中の日常の様子をご紹介します。
ぜひ、ご覧ください。



《 生徒の 活動の成果 》

順不同

《 文部科学省後援事業 》

- ◆食生活と栄養検定
日本栄養大学学長賞
第二回中級

さん

《 東京都中体連荒川支部 》

- ◆ バレーボール部
春季バレーボール大会

第3位